

「ジャパン・トランス・ライン」が事業開始、関東―関西間の幹線運行を効率化

トナミHD／第一貨物／久留米が共同出資

3日に京浜T.T内で出発式を開催

トナミ運輸、第一貨物、久留米運送の3社の幹線運行効率化を目的に設立された合併会社「ジャパン・トランス・ライン」が事業を開始した。3日には、本社がある東京・平和島の京浜トラックターミナル内で出発式が行われた。式には新会社の社長に就任した第一貨物出身の坂田昭雄社長や出資3社の社長も出席し、事業開始を祝ってテープカットが行われた。

ジャパン・トランス・ラインは今年4月2日に設立。資本金は6000万円で、トナミホールディングスと第一貨物が各40%、久留米運送が20%を出資した。4月26日に国交省に一般貨物自動車運送事業の事業許可を申請、8月2日に事業許可書の交付を受け、今回の事業開始に至った。

新会社の本社所在地は、東京都大田区平和島2の1の1にある京浜トラックターミナル管理棟2階。人員14名（うちドライバー職12名）、車両12台で業務を開始した。

当面は3社の「関東―関西」間の運行業務の一部を受託し、幹線運行における効率化に寄与していく。具体的には、これまで外部のトラック事業者などに任せていた幹線輸送の一部を新会社に委託することで、コストを内製化できる。また、3社はそれぞれ得意とするエリアが違いため、往復荷の確保といった課題の解消にもつながる。将来的には、事業領域の拡大や事業会社間のインフラ機能の共有化なども視野に入れていく。

3日に行われた出発式には、坂田社長に加え、綿貫勝介・トナミHD社長、武藤幸規・第一貨物差社長、二又茂明・久留米運送社長も出



事業開始を祝してテープカット

席し、テープカットを行った。挨拶した坂田社長は「当社は今年4月に3事業会社の大きな夢を背負って誕生した小さな会社。関東―関西間の輸送を12台の車両でスタートするが、これは

第一歩。今後は困難なこともあるだろうが、関係者と協議しながら進んでいきたい」と述べた。また、出資会社のひとつである第一貨物の武藤社長は「まずは事故なく、安全に滞りなく事業をスタートさせること。これをきっかけに事業を色々展させていきたい」と語っていた。

出発式では、3社の社長がドライバーと握手したのち、6台のトラックが関係者が見守る中、次々に出発していった。



関係者が見送る中、トラックが出発